



新型コロナウイルスPCR検査と

抗原検査の違いとは？

検査室 石田雅美 室長

日頃、ニュースなどで「コロナPCR検査」や「抗原検査」という言葉をよく耳にするとと思いますが、皆さんはその違いをご存じですか？

〈コロナPCR検査〉

コロナPCR検査とは、ウイルスの遺伝子を専用の薬液を用いて増幅させ検出する検査方法です。鼻や咽頭、唾液から検体を採取し、検査を行います。主に、検査時点で体内にウイルスが存在するかどうかを調べるときに用います。検出率は約70%程度といわれており、感染していたとしても陰性となってしまう場合がありますので注意が必要です。

〈抗原検査〉

抗原検査とは、ウイルスが持つ特有のタンパク質(抗原)を検出する検査方法です。PCR検査に比べて検出率は劣りますが、少ない時間で結果が得ることができ、特別な検査機器を必要としないことから、速やかに判断が必要な場合に用いられることが多いです。

もし発熱やのどの痛みなどの症状があれば、早めに医療機関を受診し、コロナPCR検査・抗原検査を受けましょう。そして、自分自身や家族、周りの人を守るために、手指消毒、会話中のマスクの着用、密集や密接を避けるなどの対策を心掛けましょう。



健康づくり応援通信 52

小学6年生～高校1年生の女子の皆さん
子宮頸がん予防(HPV)ワクチンを受けましょう

HPVワクチンは、平成25年4月から定期予防接種として実施されていますが、接種後の痛みや運動障害などの多様な副反応の報告が相次いだことから、同年6月から積極的な接種勧奨を差し控えていました。このことによって、HPVワクチンの接種率は大きく低下し、接種していない世代の子宮頸がん患者が増加することが懸念されています。

この度、国の検討部会でHPVワクチンの安全性について、特段の懸念が認められないことや、接種による有効性が副反応のリスクを明らかに上回ることが認められたため、接種勧奨が再開されることになりました。

HPVワクチンは若い年齢で接種するほど効果が高く、副反応も少ない傾向があります。本人と保護者にはワクチンの有効性やリスクなどを十分にご理解いただき、接種を希望する場合は、体調の良いときに、かかりつけの医療機関で受けましょう。



子宮頸がん予防ワクチン公費接種

接種対象者 小学校6年生～高校1年生に相当する年齢の女子

※標準的な接種年齢は、中学校1年生相当の年齢となっています。

※平成9年度から平成17年度生まれの女子も無料で受けることができます。(接種期間は令和4年4月～令和7年3月)

接種回数 3回

料金 無料



健康づくり課 ☎ 21-0228